

千葉県帰性会だより

平成 18 年 9 月 1 日

ふくでん

題字：理事長 橋本 照稔

更生保護法人 千葉県帰性会

千葉県千葉市若葉区貝塚町 27 番地
http://www.chibaken-kiseikai.org043-231-1610 fax 043-231-1621
E-mail kiseikai@abeam.ocn.ne.jp

「あいさつ

更生保護法人 千葉県帰性会

理事長 橋本 照稔



更生保護法人「千葉県帰性会」の安定した運営のため、このたび「賛助会員」制度が発足された。そして広く本会の活動をご理解いただく為に年間事業報告書を広報誌「ふくでん」(福田)と名づけて発行することになった。よってこの機会に本会の沿革を簡単に振り返り、御理解に供したいと思う。

明治初年、徳川幕府より政権を受け継いだ明治政府は、近代国家建設を旗印に、矢継ぎ早に各種施策を施行した。その中には犯罪者の処遇問題もあった。明治五年、「監獄則」が制定され、犯罪者の収容施設として、千葉県では「寒川監獄」の設定に始まり、それは現代の「千葉刑務所」に至っている。それと同時に刑期を終了、満期にして尚更生の見込みの見えないもの、釈放後の生計の見込みのないもの等は監獄の別施設「懲治監」を設立収容された。明

治十四年、「懲治監」制度は廃止され、成人は「別房留置所」に、少年は「懲治場」にと区別して収容された。

比等の監獄出所者の処遇について明治政府は困惑した模様で、各府県に民間出獄人保護会社設立を推奨された。これにより少年については「千葉感化院」が県下仏教寺院連合により明治十九年に設立され、後の公立少年院に受け継がれて行くことになった。成人では明治三十年の恩赦により多数の出獄者を迎え、民間の出獄人保護活動に合わせ、県下仏教会が協力設立したのが「帰性会」の嚆矢「千葉保護院」であった。その後、経営は変遷を重ね、名称も「千葉福田院」、「千葉助成会」などと変更、大正四年「千葉県帰性会」と改称、大正十一年には県内各地に四十七支部を設け佛教会の各教区所、郡役所、警察派出所等の協力を得て、一時保護等の更生の助力を実施して来た。その後、犯罪者処遇の変遷もあり又、幾度かの戦争時代を経て現在に至っている。

今般発刊する「ふくでん」は当会が過去「千葉福田院」と称したことに因み、名づけたものである。「福田」とは佛教語で「善い行いの種子を蒔いて、

福德の収穫を得る田畑」との意味である。

我国へ佛教が伝来した時、逸早く受容された聖徳太子は佛教精神にて我国を統治された。そして老人、貧窮者や病人等を収容する「敬田院」、「悲田院」、「施薬院」、「療養院」の四施設を四天王寺に建立され、又光明皇后は東大寺に「悲田院」、「療院」を設けられたことは周知の事実である。これは正に「福田」の教えの実践であり、更にこの事業に協力を呼びかけられ、社会の人々に福德の喜びを得られるように勧められたのであった。

以来、我国では各種慈善社会事業が拡がり、比等の事業に対する賛助奉仕活動が特に近年盛んになり、喜ばしい限りである。

「千葉県帰性会」の活動は、刑を終えた者の新しい社会生活への対応として、身寄りの無い者の一時留、新生活への対応訓練などを指導する更生保護施設として重要な役割を擔っている。多くの世の人に御賛助を願う次第である。